

事業所名		伊東市立さくら園				公表日	令和8年2月20日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	4	・限りある施設と職員配置のなかで、職員がダンボールでパーテーションを作ったりとたくさん工夫している。	パーテーションでスペースを作っても、音は聞こえているので、集中できないこともあり別室を使うことも考えていきたい。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	3		・こどもの発達の特性に対して、職員はもっと必要だと感じる。 ・生活動線が悪く、新年度など子どもたちが流れに慣れるまでは、保育者の配置が上手くいかないことがある。 ・子供の人数に応じて、部屋や職員体制を増やしたりできるとよい。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	7	・部屋の数がすくないため、仕切りをして落ち着いている空間づくりをしている。 ・パーテーションを使い活動内容によっては区切るなど工夫している。	・食事の部屋や運動の部屋など、子どもたちにわかりやすく配置されていると理想である。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	1	・パーテーションで仕切り、食事と遊びのスペースに分けている。次の行動の切り替えにも部屋を分けていることに対応できている。 ・パーテーションなどを使いながら、狭い空間をうまく使ってこどもたちが心地よく過ごせるように工夫している。	・施設が古くて危険などところがある。 ・室内が明るいことは良いが、天井が高く冷暖房の効率が悪い。遮光ネットやプチプチ、不織布など使用し、遮熱、防寒に務めている。 ・冬が寒いので廊下にもエアコンが欲しい。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	4	・パーテーションなどを使い落ち着ける環境などを作っている。 ・パーテーション等を使いながら子どもたちが心地よく過ごせるように区切り空間を利用している。	・パーテーションが使いつらいので、指を挟んだりけがをしないよう気を付けている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10		・行事などがある時は事前に細かく打ち合わせをし、終わったら反省をするようにしている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		・職員間の共通理解、認識ができるよう会議だけではなく、日常の中でも報告や相談を心がけるようにしている。	・勤務時間の短い職員が把握出来ていないことがあるため、より一層気をつけて伝えていくようにする。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	4		・第三者評価はまだ行っていないが今後検討していきたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10				
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10		・適切な支援を提供するために会議、反省を都度実施している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		・職員会議やケース会議のなかで、共通理解で子どもの支援に当たれるよう細かい話し合いをしてる。 ・なんでもいいあえる環境づくりにつとめている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	1		園内研修などを行い、子どもの支援の方法について学びそれをいかしていきます。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	10		・グループで個々の成長に合わせて同じ支援が送れるよう担任同士で話し合い工夫しながら支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10		・困った時はグループで話し合って意見を出し合っている。また、グループ以外の職員からもアドバイスをもらうなどの工夫をしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		・個別計画を元に、日々の子どもの表れ、その対応を繰り返し確認、話し合うことでその時々合う支援ができるようにしている。 ・子どもの表れの見立ての違いを、話し合いをしっかりとすることで考え方、見方をすり合わせ、支援の差やズレが生じないようにする。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10		・関わっている機関とは風通しのよい関係である。 ・施設外からの医療従事者等が参加している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	2		・普段から隣の保育園と園庭で交流する機会はあるが、情報共有まではいかないので、年齢ごとの打ち合わせなど定期的に行ってきたい。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	10			
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	10				

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・送迎の時間を利用し、丁寧に子どもたちの様子を伝えながら、共通理解、認識を持って保護者と関わるようにしている。 ・成長や変化があったときは保護者や関係機関と話し合い一緒に喜び合ったり同じ支援ができるような形をとっている。 ・帰りに1日の様子や、できた事などを伝えるようにしている。 	・保護者とゆっくり話す機会があまりないため担任との面談日があるときよりよい。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	1	<ul style="list-style-type: none"> ・職員のペアトレなど研修は計画的にできるが保護者を全員集めての研修会は回数が減っている 	・家族支援プログラムについて、働く保護者が増えたことで、参加人数が少ないこともあり、年1回程度となっている。行事との抱き合わせなどで、参加しやすいよう工夫している。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・欠席をした時など、連絡をいれながら行事や持ち物などを伝えているが、うまくいかないとときもあります 	・コドモのような支援システムがあった方が今の保護者には連絡が取りやすいのかもしれないと感じる。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10				
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	10				
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者へ寄り添い問題点ばかりに目を向けず一緒に子育てできるように工夫しながら配慮している。 		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9	1		仕事をしている保護者が増え、父母の会の回数がへっているが、交流の機会は大切にしていきたい。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10				
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の取り組みや特別な行事等で何があったかなど都度保護者に丁寧に説明している 		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10				
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・行き違いや伝え忘れないよう伝え方を工夫している。 	・行事の日程、持ち物など、事前のお知らせを何度か繰り返し伝えても忘れがちなため、前日の伝言や電話連絡をしっかりと行う。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	6		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの特性もあり、なかなか地域の人を呼ぶことは難しいが、散歩のときなど地域の人と触れるようにしていく。 	
	非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、避難訓練の時に細かい確認はしている。 	・本当に非常事態が起きた時、パニックを起こしてしまった時の対応の仕方を職員で話し合うことも必要だと感じる。
46		業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・各訓練について、隣接する保育園と同じ内容で組むことで、毎月や定期的に行っている。 		
47		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・管理記録などで児童の既往や予防接種履歴を把握しているとともに、非常時の研修を実施し、柔軟に対応できるよう準備している。 		
48		食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10				
49		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10				
50		こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・訓練がある時は事前に予告するようにしている。 		
51		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの動きを把握し、事前に止められるように配慮する。 	

52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	10			